授業科目	看護学概論	学年	１学年
		単位	1
時期	前期	時間	30
科目設定理由	看護学は人間の健康の保持・増進を目指す実践活動である。本科目では看護の本質や役割と機能を学ぶ。また、看護が今日に至るまでの軌跡を起源から辿り、歴史上の事実を学ぶことによって、看護が人間社会に貢献しており、多大な存在意義があることを理解する。そして看護に対する考え方や、社会的評価が歴史的にみてどのように変化していったのかを、その時代の生活、宗教、経済、社会（特に戦争）などとの関連から学ぶ。各内容ごとのワークシートを活用し、適宜ＧＷを行いながら看護の構造や看護の対象を理解し、看護倫理の育成を図る。		
目的	看護の本質を学ぶ		
目標	1.看護の本質について理解する 2.看護の原点、Ｆ.ナイチンゲールとV.ヘンダーソンの看護観を知る 3.看護の歴史を理解する 4.職業としての看護を理解する 5.看護職者の養成について理解する 6.看護の提供の仕組みを理解する 7.看護における倫理を理解する 8.看護の対象である人間について理解を深める		
評価方法	筆記試験 90点 課題レポート 10点		
使用テキスト	＜系統看護学講座＞専門分野Ｉ・基礎看護学１・看護学概論：医学書院 看護覚え書き：日本看護協会出版会 看護の基本となるもの：日本看護協会出版会 人間対人間の看護：医学書院		
参考図書	授業内で指示します		
科目担当	副学校長	看護師として附属病院で29年間の実務経験有	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	ガイダンス フローレンス・ナイティンゲールの看護観	1.看護を学ぶ意味や意義を確認する 2.. フローレンス・ナイティンゲールの看護理論の概略を理解する	１．フローレンス・ナイティンゲール著： 「看護覚え書き－本当の看護とそうでない看護－」について	講義	「看護覚え書き」は基礎看護学の授業の進度に合わせ1年間かけ読んでいく
2	ヴァージニア・ヘンダーソンの看護観	ヴァージニア・ヘンダーソンの看護理論の概略を理解する	１．ヴァージニア・ヘンダーソン箸： 「看護の基本となるもの」について	講義	「看護の基本となるもの」は基礎看護学の授業の進度に合わせ1年間かけて読んでいく
3	看護の歴史	看護の原点から近代看護への変化を通じ看護の本質を理解する	1.看護の歴史 2.看護の原点と語源 3.ナイチンゲール以前の看護と近代看護の確立	講義	
4.5.6	「看護」の本質	1.看護の本質を理解する 2.看護の役割と機能について理解する 3.看護の継続性と情報の共有を理解する	1.看護理論とは 2.看護の定義 （理論家による定義、職能団体の定義、定義の構成要素、法律上の看護師の役割） 3.看護行為としての本質－ケア－ 4.看護師の思考プロセス（思考判断） 5.看護技術の特徴 6.看護の質の保障 7.自立した看護師に求められる能力 8.看護の継続性と情報共有	講義 演習	

7.8	看護の対象の理解：人間について	1.人間の「こころ」と「からだ」を理解する 2.生涯発達し続ける存在としての人間を理解する 3.身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的側面をもつ統合体としての人間を理解する 4.生活者としての人間を理解する 5.看護の対象としての家族・集団・地域を理解する	1.身体の理解とこころのつながり 2.ストレス反応、こころの理解に役立つ理論（マズローの欲求の階層、危機理論） 3.成長・発達・発育、 4.生活者としての人間 5.看護の対象としての集団 6.身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的側面を持つ統合体としての人間の理解	講義 演習	
9	看護の対象の理解：人間関係について	看護を人間関係の視点からとらえる	ジョイス・トラベルビーの「人間対人間」の看護について	演習	
10	看護における倫理	1.現代社会における職業倫理を理解する 2.医療をめぐる倫理の歴史的変遷を学ぶ 3.看護実践における倫理問題への取り組みを理解する 4.倫理原則を理解する	1.倫理とは 2.倫理を学ぶ意味 3.職業倫理と看護倫理 4.医師会の取り組み（ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言から） 5.看護師協会の取り組み 6.倫理原則 7.現代医療を取り巻く倫理問題	講義	
11.12	看護の提供のしくみ ・看護サービス ・経済 ・医療安全	1.サービスとしての看護を理解する 2.看護サービスの場を理解する3.看護・医療に関わる法制度を理解する 4.医療安全と医療の質の保障を理解する 5.看護サービス管理を理解する 6.看護・医療における経済のしくみについて理解する	1.看護サービスの提供の場 2.チーム医療における看護師の役割 3.医療施設の定義 4.地域における看護の特徴 5.看護サービスと看護職者に関わる法律 6.看護職者の労働に関わる法律 7.医療事故における法的責任 8.ヒューマンエラーと医療事故 9.看護サービス管理とは 10.組織とは 11.医療制度の概要	講義	
13	職業としての看護	1.職業としての看護の始まりを理解する 2.職業としての看護の確立を理解する 3.職業としての看護の新たな展開を理解する	1.職業としての看護の始まりと保健師助産師看護師法の制定 2.看護師の人材確保に関する問題、看護師の質の向上への取り組み。3.今後期待される看護師のあり方	講義	
14	看護職者の養成	1.看護職の養成制度を理解する 2.看護職者の教育とキャリア開発を理解する 3.看護職者の役割拡大の現状を理解する 4.看護教員の育成について理解する	1.法的な規定 2.看護職者の養成3.と就業状況看護職者のキャリア開発 4.看護職養成に関する課題 5.拡大する看護職の役割、看護教員養成	講義	
15	テスト				

授業科目	共通基本技術	学年	1学年
		単位	1
時期	前期-後期	時間	30
科目設定理由	看護技術は対象となる人々に対して安全・安楽に、できる限り身体的・精神的・社会的に自立して、生活が送れるよう援助する技術である。本科目では、看護技術の土台となる共通する考え方や技術の基本を学ぶ。医療を行う上での基本であり対象と看護師を病原微生物から守るための感染予防の技術、対象や看護師自身の安全や安楽を守るための医療安全の視点を学ぶ。また、看護技術の実践においては、人間関係の形成や対象理解が基盤となる。そのため、対象を理解し、関係性を構築するためのコミュニケーション技術を学ぶ。さらに、災害や緊急な対処が求められる状況に応じて適切な判断と行動がとれるよう救命救急処置技術を学ぶ。これらの技術は、さまざまな看護場面において必要となる基本技術である。		
目的	看護技術の土台となる共通する考え方や技術の基本を学ぶ。		
目標	1.感染予防の意義と援助方法を理解する 2.感染予防のための技術を身につける 3.病床環境の意義と環境調整について理解する 4. 環境調整のための技術を身につける 5.安全管理の意義と援助方法を理解する 6.救命救急処置技術の意義と援助方法を理解する 7.救命救急処置技術を身につける 8.対象理解の基本技術を理解する		
評価方法	筆記試験　　技術試験（配分：ベッドメーキング　1割）		
使用テキスト	＜系統看護学講座＞専門分野・基礎看護学２・基礎看護技術Ⅰ：医学書院 ＜系統看護学講座＞専門分野・基礎看護学３・基礎看護技術Ⅱ：医学書院 ＜系統看護学講座＞統合分野・医療安全：医学書院		
参考図書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院		
科目担当	専任教員	看護師として附属病院で13年間の実務経験有	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	救命救急処置技術 1）救命救急処置の基礎	一次救命処置技術について理解する	救命救急処置技術の基礎知識 一次救命処置（ＢＬＳ）の実際	講義	基礎看護技術Ⅱ
2	コミュニケーション 1）コミュニケーションの基本	コミュニケーションの基本について理解する	コミュニケーションの基本 プロセスレコードとは	講義	基礎看護技術Ⅰ
3	安全確保の技術	安全確保の基礎知識と援助方法を理解する	安全確保の基礎知識 誤薬防止 チューブ類の事故防止 患者誤認防止 転倒・転落防止	講義	基礎看護技術Ⅰ
4	看護の継続性と連携 1）対象を理解するための情報収集 2）情報の伝達と共有化 3）対象の健康上の問題を明らかにする	対象を理解するための情報収集について理解する 情報の伝達と共有の大切さについて理解する 情報の分析方法や対象の捉え方について理解する	人として対象理解するための情報収集 情報収集の内容や方法 カンファレンスとは 報告・連絡・相談の重要性 対象の情報を分析し、対象の健康上の問題を明らかにする。 対象のねがいをふまえ、対象に必要な看護を検討する。	講義	看護学概論
5	看護記録	看護に必要な記録を理解する	記録の基礎知識	講義	基礎看護技術Ⅰ
6	感染防止の技術 1）感染の成り立ちと感染予防の基本	感染予防の基礎知識について理解する	感染の成り立ちと感染予防の基本、手指衛生、 個人防護用具の装着方法の体験	講義・演習	基礎看護技術Ⅰ
7	感染防止の技術 2）標準予防策	標準予防策について理解する	感染防止の基礎知識、標準予防策（スタンダード・プリコーション）について	講義	基礎看護技術Ⅰ

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
8	感染防止の技術 3）感染経路別予防策	感染経路別予防策について理解する	感染経路、それぞれの感染経路別予防策	講義	基礎看護技術Ⅰ
9	感染防止の技術 4）洗浄・消毒滅菌、医療廃棄物の処理	洗浄・消毒・滅菌、医療廃棄物の処理について理解する	洗浄・消毒・滅菌の基礎知識、 医療廃棄物の取り扱いについて	講義	基礎看護技術Ⅰ
10	環境調整技術 1）療養生活の環境と調整	1.環境とは何か理解できる。 2.療養生活と環境について理解できる	環境とは 療養生活と環境 環境調整の必要性 病床環境の調整	講義	基礎看護技術Ⅱ
11	環境調整技術 2）病床の環境整備とベッドメーキング	1.病床環境を整える目的が理解できる。 2.病床環境を整える方法について理解できる	病床環境を整える 環境整備の目的・方法 ベッドメーキングの目的・方法 臥床患者のリネン交換目的・方法	講義	基礎看護技術Ⅱ
12	環境調整技術 3）ベッドメーキングの実際	ベッドメーキングを実施する	しわがなく崩れにくいベッドの作成、クローズドベッドから オープンベッドへの整え方 ボディメカニクスの活用	演習	基礎看護技術Ⅱ
13	環境調整技術 4）ベッドメーキングの実際	ベッドメーキングの技術を習得する	対象に合わせたベッドメーキングの作成 しわがなく崩れにくいベッドの作成、クローズドベッドから オープンベッドへの整え方 ボディメカニクスの活用	技術試験	
14	環境調整技術 5）臥床患者のシーツ交換と環境整備	臥床患者のシーツ交換と環境調整を実施する	対象の生活しやすさを考えた環境調整 対象に負担をかけないリネン交換の方法、清潔なリネンと汚染されたリネンの取り扱い 対象への配慮	演習	基礎看護技術Ⅱ
15	テスト				

授業科目	生活援助技術Ⅰ	学年	1学年
		単位	1
時期	前期-後期	時間	15
科目設定理由	対象が安全に安心して療養に専念できるよう支援することは看護師の役割である。本科目では、安全安楽な生活行動（活動・休息）を調整・支援する基本的技術を身につける。そして科学的根拠に基づき対象にあわせた援助を工夫できる能力を養う。 合わせて、看護師と対象にとって無理のない安楽な動き、援助行動の基礎となるボディメカニクスの原理や日常生活に支障をきたしている対象への配慮など、倫理的判断についても考えを深める。		
目的	安全安楽な生活行動（活動・休息）を調整・支援する基本的技術についての基本的知識と科学的根拠に基づいた原理原則について学ぶ。		
目標	1.活動・休息援助技術の意義と援助方法を理解する 2.活動・休息援助技術を身につける		
評価方法	筆記試験　　技術試験　（配分：車椅子移送・移乗介助、体位変換・保持　1割）		
使用テキスト	＜系統看護学講座＞専門分野・基礎看護学２・基礎看護技術Ⅰ：医学書院 ＜系統看護学講座＞専門分野・基礎看護学３・基礎看護技術Ⅱ：医学書院		
参考図書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	活動・休息援助技術 1）ボディメカニクス	活動・休息を促すことの意義や援助方法について理解する	活動・休息を促す意義 同一体位による身体への弊害 ボディメカニクス技術の基本 安静の意味と意義、体位の種類	講義	基礎看護技術Ⅱ
2	活動・休息援助技術 2）体位保持・体位変換	体位と移動に関するアセスメント、体位保持の工夫と援助ができる	体位の種類、体位の身体的影響、 体位変換の目的、 安楽な体位保持の援助方法と工夫 体位と移動に関するアセスメント、 体位変換の体験 1)水平移動 2)上下移動 3)臥位から側臥位 4)臥位からファーラー位	講義	基礎看護技術Ⅱ
3	活動・休息援助技術 3）車椅子移乗・移送の実際	車椅子移乗・移送ができる	車椅子各部の名称、点検方法、 車椅子移乗・移送の援助方法、 （臥位から端座位、車椅子移乗、車椅子移送） ボディメカニクスの活用方法、 安全・安楽に援助を行うための工夫、 援助時の配慮した声かけ、観察の視点	演習	基礎看護技術Ⅱ
4	活動・休息援助技術 4）ストレッチャー移乗・移送の実際	ストレッチャー移乗・移送ができる	ストレッチャー各部の名称、点検方法、 ストレッチャー移乗方法 （３人による移乗、バスタオルを用いた移乗） 援助時の配慮した声かけ、観察の視点	演習	基礎看護技術Ⅱ
5	活動・休息援助技術 5）睡眠・休息を促す援助	睡眠・休息を促す援助について理解する	睡眠の意義と目的、睡眠の種類と役割、 睡眠・休息のアセスメント、 生体リズム（サーカディアンリズム）、 睡眠を妨げる因子、睡眠障害の種類、 睡眠・休息を促す援助方法	講義・演習	基礎看護技術Ⅱ
6	活動・休息援助技術 6）体位保持、体位変換、車椅子移乗・移送の実際	体位保持、体位変換、車椅子移乗・移送ができる	ボディメカニクスを活用した体位変換、 ボディメカニクスを活用した安全な車椅子移乗、安全な車椅子移送、安楽な体位変換、 援助時の配慮した声かけ、観察	演習	基礎看護技術Ⅱ
7	活動・休息援助技術 7）体位保持、体位変換、車椅子移乗・移送の実際	体位保持、体位変換、車椅子移乗・移送の技術が習得できる	ボディメカニクスを活用した体位変換、 ボディメカニクスを活用した安全な車椅子移乗、安全な車椅子移送、安楽な体位変換、 援助時の配慮した声かけ、観察	技術試験	
8	テスト				

授業科目	生活援助技術Ⅱ	学年	1学年
		単位	1
時期	前期-後期	時間	30
科目設定理由	本科目では、対象のニーズに応じた衣生活・清潔行動の調整・支援をするための基本的技術を学習する。 人間にとって身体の清潔が保たれることは、どのような健康状態・発達段階にあっても人間の基本的欲求として満たされるべきである。清潔と衣生活の意義と援助方法を学び、様々な清潔援助を通して対象に合わせた援助を工夫できるようになるための基礎的技術を身につける。　健康であれば、清潔行動は人に委ねることなく、自分自身で行う行為である。対象者の清潔行動に関心をもち、対象の自立や羞恥心に配慮した援助につなげられるようにしていく。		
目的	対象のニーズに応じた衣生活・清潔行動の調整・支援をするための基本的技術を学ぶ。		
目標	1.清潔・衣生活援助技術の意義と援助方法を理解する 2.清潔・衣生活援助技術の基礎的技術を身につける 3.対象の個別性に合わせた清潔・衣生活援助を考え、実践することができる		
評価方法	筆記試験 技術試験（配分：部分浴　1割、オムツ交換・点滴をしていない患者の寝衣交換・全身清拭　1割、洗髪　1割）		
使用テキスト	＜系統看護学講座＞専門分野・基礎看護学２・基礎看護技術Ⅰ：医学書院 ＜系統看護学講座＞専門分野・基礎看護学３・基礎看護技術Ⅱ：医学書院		
参考図書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院		
科目担当	専任教員	助産師として附属病院と他病院合わせて9年間の実務経験有	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	清潔・衣生活援助技術 1）術清潔援助の基礎知識	清潔の意義と援助方法を理解する	清潔とは、汚れの原因と清潔方法、清潔援助における生理・精神・社会的影響と看護者の役割、清潔援助のプロセス、入浴の目的と全身への影響、入浴・シャワー浴の実際	講義	基礎看護技術Ⅱ
2	清潔・衣生活援助技術 2）部分浴の援助（手浴・足浴）	部分浴の意義と援助方法を理解する	部分浴の適応と目的、手浴（手の特徴、目的、効果、留意点、観察）、足浴（足の特徴、目的、効果、留意点、観察） 部分浴における原理・原則 足浴のデモンストレーション	講義	基礎看護技術Ⅱ
3	清潔・衣生活援助技術 3）部分浴の援助の実際	部分浴の援助ができる	臥床または座位保持が可能な対象への足浴 使用物品の準備と配置、湯温の調整と取り扱い 体位と支え方、石鹸を用いた洗浄、保温に配慮した工夫、援助を実施しながらの観察・声かけ	演習	基礎看護技術Ⅱ
4	清潔・衣生活援助技術 4）対象に応じた清潔援助の実際（部分浴・爪切り）	対象の状態や状況に応じた清潔援助の実際を学ぶ	・対象の症状や自立度に合わせた援助方法の立案と援助の実践 ・対象の症状の悪化や事故防止を考えた援助 ・対象の症状や状況に合わせた、適切なコミュニケーション ・爪切りの実際	演習	基礎看護技術Ⅱ
5	清潔・衣生活援助技術 5）対象に応じた清潔援助の実際（部分浴）	対象の状態や状況に応じた清潔援助の実際の技術を習得できる	・対象の症状や自立度に合わせた援助方法の立案と援助の実践 ・対象の症状の悪化や事故防止を考えた援助 ・対象の症状や状況に合わせた、適切なコミュニケーション	技術試験	
6	清潔・衣生活援助技術 6）衣生活の基礎知識と援助	衣生活援助技術の意義と援助方法を理解する	衣服の意義、対象者の状態と衣生活、衣生活に関するアセスメント、援助の実際、臥床患者の寝衣交換の実際、輸液ラインが入っている場合の寝衣交換	講義・演習	基礎看護技術Ⅱ
7	清潔・衣生活援助技術 7）全身清拭と陰部ケア	全身清拭の意義と援助方法を理解する	全身清拭の意義、清拭実施前のアセスメント、清拭援助の実際、陰部ケアの意義、陰部洗浄の目的と実際 清拭と陰部清拭の体験	講義	基礎看護技術Ⅱ

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
8	清潔・衣生活援助技術 8）全身清拭と寝衣交換の実際	全身清拭、寝衣交換の援助できる	臥床患者の全身清拭と寝衣交換・陰部ケア・オムツ交換 使用物品の配置と環境調整、湯温の調整と清拭タオルの取り扱い,身体各部の特徴に合わせた清拭方法、対象の羞恥心や保温に配慮したバスタオルの使い方、対象の身体に負担がかからない寝衣の交換方法、援助を実施しながらの観察	演習	基礎看護技術Ⅱ
9	清潔・衣生活援助技術 9）対象に応じた清潔援助の実際（全身清拭）	対象の状態や状況に応じた清潔援助の実際を学ぶ	・対象の症状や自立度に合わせた援助方法の立案と援助の実践 ・対象の症状の悪化や事故防止を考えた援助 ・対象の症状や状況に合わせた、適切なコミュニケーション	演習	基礎看護技術Ⅱ
10	清潔・衣生活援助技術 10）対象に応じた清潔援助の実際（全身清拭）	清潔援助の実際（全身清拭、寝衣交換、陰部ケア、オムツ交換）の技術を習得できる	・対象の症状や自立度に合わせた援助方法の立案と援助の実践 ・対象の症状の悪化や事故防止を考えた援助 ・対象の症状や状況に合わせた、適切なコミュニケーション	技術試験	
11	清潔・衣生活援助技術 11）頭皮、頭髪の清潔援助	頭皮・頭髪の清潔の意義を理解する	頭皮・頭髪の清潔の意義、洗髪実施前のアセスメント、洗髪の援助の実際、安楽な体位	講義	基礎看護技術Ⅱ
12	清潔・衣生活援助技術 12）洗髪の援助の実際	洗髪の援助ができる	臥床している対象の洗髪車を用いた洗髪 椅座位が可能な対象の洗髪車での洗髪 使用物品の準備・配置、湯量と温度の調整、安楽な体位、ブラッシング、洗い方、すすぎ方、整髪、配慮した声かけ・観察	演習	基礎看護技術Ⅱ
13	清潔・衣生活援助技術 13）対象に応じた清潔援助の実際（洗髪）	対象の状態や状況に応じた清潔援助の実際を学ぶ	・対象の症状や自立度に合わせた援助方法の立案と援助の実践 ・対象の症状の悪化や事故防止を考えた援助 ・対象の症状や状況に合わせた、適切なコミュニケーション	演習	基礎看護技術Ⅱ
14	清潔・衣生活援助技術 14）対象に応じた清潔援助の実際（洗髪）	対象の状態や状況に応じた清潔援助の実際（洗髪）を習得できる	臥床している対象の洗髪車を用いた洗髪 椅座位が可能な対象の洗髪台出の洗髪 使用物品の準備・配置、湯量と温度の調整、安楽な体位、ブラッシング、洗い方、すすぎ方、整髪、配慮した声かけ・観察	技術試験	
15	テスト				

授業科目	生活援助技術Ⅲ	学年	1学年
		単位	1
時期	前期-後期	時間	30
科目設定理由	本科目では、対象のニーズに応じた食事・排泄、整容行動の調整・支援をするための基本的技術を学習する。 人間にとって栄養を補給し、消化・吸収を経て排泄する機能は、生命維持に欠かせない機能である。授業を通して、人間が生きるための食事の意義を考え、対象の食行動や食生活に関心をもち援助につなげられるようにしていく。 また、健康であれば、排泄や整容は人に委ねることなく、自分自身で行う行為である。患者の自立にむけ、羞恥心に配慮して援助につなげられるようにしていく。		
目的	対象のニーズに応じた食事・排泄、整容行動の調整・支援をするための基本的技術を学ぶ。		
目標	1.食事援助技術の意義と援助方法を理解する。 2.食事援助技術を身につける 3.排泄援助技術の意義と援助方法を理解する 4.排泄援助技術を身につける 5.整容の援助技術の意義と援助方法を理解する 6.整容の援助技術を身につける		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	＜系統看護学講座＞専門分野・基礎看護学２・基礎看護技術Ⅰ：医学書院 ＜系統看護学講座＞専門分野・基礎看護学３・基礎看護技術Ⅱ：医学書院		
参考図書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院		
科目担当	専任教員	看護師として附属病院で11年間の実務経験有	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	食事援助技術 1）食事の意義と食生活の支援	食事の意義を理解し、食生活の支援について理解する	食事・栄養のもつ意義、 食事援助をアセスメントするための基礎知識、 嚥下・消化吸収のしくみ	講義	基礎看護技術Ⅱ
2	食事援助技術 2）食事摂取の介助	食事介助方法、食事療法の基本について理解する	食事療法とは、食事介助について、 援助の基礎知識、誤嚥しない姿勢 食事環境整備、食事介助時の観察項目	講義	基礎看護技術Ⅱ
3	食事援助技術 3）非経口的栄養摂取方法	摂食・嚥下に関する援助の実際と非経口的栄養摂取の援助の実際について理解する	摂食・嚥下に関する援助方法とその根拠、 食事介助時の声かけ、食事時の環境調整、 プライバシーへの配慮、 食事介助を受ける対象の思いについて、 非経口的栄養摂取の援助方法の種類と特徴 （経鼻経管栄養法による流動食の注入、経鼻-胃チューブの挿入、胃瘻法、中心静脈栄養法）	講義	基礎看護技術Ⅱ
4	食事援助技術 4）食事摂取介助の実際	食事介助の方法と留意点、態度について理解し食事の援助方法が実施できる	患者誤認防止の方法、食事に集中できる環境調整、誤嚥しない体位の工夫、 安全に食事を摂取する方法 （食事のペース、一口量、口へ運ぶタイミング）	演習	基礎看護技術Ⅱ
5	清潔・衣生活援助技術 1）口腔ケア 2）整容（洗面、眼・耳・鼻の清潔、爪切り、髭剃り）	口腔ケアの意義と援助技術について理解できる	口腔ケア、整容の意義、口腔ケア援助時のアセスメント、口腔ケアの実際	講義	基礎看護技術Ⅱ
6	清潔・衣生活援助技術 2）口腔ケアと整容援助の実際	口腔ケア・整容の援助技術が実施できる	顔面清拭、口腔ケア、Ｔ字剃刀を用いた髭剃り 使用物品の準備・配置、顔の構造・特徴に合わせた清拭、誤嚥を起こさない方法での口腔ケア、皮膚を傷つけない方法での髭剃り、心理的苦痛への配慮、援助を実施しながらの観察	演習	基礎看護技術Ⅱ

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
7	排泄援助技術 1）排泄の意義と看護師の役割	排泄の意義と看護師の役割について理解する	排泄の定義、排尿の機序と正常、 排便の機序と正常、排泄に影響を与える因子、 排泄の援助の意義（看護の役割）	講義	基礎看護技術Ⅱ
8・9・10・11	排泄援助技術 2）自然排泄の介助 3）自然排泄の介助の実際 4）対象に応じた排泄援助の実際（尿器、便器、ポータブルトイレの介助、おむつ交換） 5）浣腸・摘便	2）便器・尿器・ポータブルトイレの介助、オムツ交換の援助方法を理解する 3）便器・尿器・ポータブルトイレの介助、オムツ交換ができる 4）対象の状態や状況に応じた排泄援助の実際を学ぶ 5）グリセリン浣腸・摘便の援助方法について理解する 浣腸・摘便ができる	・自然排泄の援助（デモンストレーション） 便器・尿器での排泄の援助、ポータブルトイレの介助、オムツ交換の実践 ・羞恥心に配慮した排泄援助、便器・尿器での排泄の援助、ポータブルトイレの介助、オムツ交換の実践 ・①対象の症状や状況を考え、自立に向けた援助 ②対象の生活の中で食事と排泄の関連を考えた援助 ③適切な排泄環境を整え、羞恥心に配慮した援助 ④健康障害による対象の苦悩を理解し、配慮した声かけや行動 ・排便障害がある対象への援助 （デモンストレーション）	講義・演習	基礎看護技術Ⅱ
12	排泄援助技術 6）導尿、膀胱内留置カテーテル法、洗浄	一時的導尿・持続的導尿・膀胱洗浄の援助方法について理解する	排尿障害がある対象への援助 一時的導尿、持続的導尿、膀胱洗浄	講義	基礎看護技術Ⅱ
13	排泄援助技術 7）導尿の実際	一時的導尿の援助ができる	一時的導尿の援助 無菌的操作での取り扱い、導尿カテーテルの挿入と抜去	演習	基礎看護技術Ⅱ
14	排泄援助技術 8）膀胱内留置カテーテル法の実際	持続的導尿の援助ができる	持続的導尿の援助 無菌操作での取り扱い、導尿カテーテルの挿入と固定および抜去、蓄尿バックの管理、採尿方法	演習	基礎看護技術Ⅱ
15	テスト				

授業科目	診療に伴う技術Ⅰ	学年	1学年
		単位	1
時期	後期	時間	30
科目設定理由	診断・治療に伴う援助は看護師の役割の一つである。対象の安全を確保し、安心して治療が受けられるための根拠ある確実な技術が求められる。対象の病状を把握し、症状軽減につなげるための援助技術は、効果的に実施できれば症状の改善に繋がるが、知識や技術が不十分であると対象の苦痛を伴う。原理・原則を想起しながら、確実な診断・治療に伴う援助技術の習得を目指す。 本科目では、呼吸・循環を整える、安楽確保、創傷管理における援助技術について学ぶ。呼吸や循環は人間の生命を司る主要な機能であり、これらの障害は多大な苦痛と死を連想させるような不安を対象に抱かせる。援助にあたっては、常に対象に配慮し思いやりを持って対応する姿勢も学ぶ。また、疾患による症状や治療に伴う苦痛に対し、苦痛緩和、リラクゼーションの技術を用いて心地よい感覚を得ることは、対象の自己治癒力を高めることにつながる。創傷管理では創傷とその治癒のメカニズムを理解し、観察に基づいた判断と治癒のために必要な援助について学ぶ。		
目的	呼吸・循環を整える、安楽確保、創傷管理における援助技術について学ぶ。		
目標	1.呼吸・循環を整える技術の意義と援助方法を理解する 2.呼吸・循環を整える基礎的技術を身につける 3.安楽確保の技術の意義と援助方法を理解する 4.安楽確保のための技術を身につける 5.創傷管理技術の意義と援助方法を理解する 6.創傷管理技術を身につける		
評価方法	筆記試験　　技術試験（配点：必要な防護用具の選択・着脱、スタンダードプリコーションを含む　1割）		
使用テキスト	＜系統看護学講座＞専門分野・基礎看護学２・基礎看護技術Ⅰ：医学書院 ＜系統看護学講座＞専門分野・基礎看護学３・基礎看護技術Ⅱ：医学書院 ＜系統看護学講座＞専門分野・基礎看護学４・臨床看護総論：医学書院		
参考図書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院		
科目担当	専任教員	看護師として附属病院で20年間の実務経験有	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	呼吸・循環を整える技術 1）酸素吸入法と人工呼吸療法	1．酸素吸入療法の目的と方法を理解する 2．人工呼吸療法の目的と仕組み、援助の実際を理解する	酸素吸入療法の目的と適応、酸素の投与方法の種類と特徴、手順・留意点・観察ポイント 人工呼吸療法の目的、人工呼吸器の仕組み	講義	基礎看護技術Ⅱ
2	呼吸・循環を整える技術 2）吸入、持続吸引	1．吸入の目的と方法を理解する 2．胸腔ドレナージの目的と方法、援助の実際を理解する	吸入の目的と適応、方法と特徴、手順・留意点・観察ポイント 胸腔ドレナージの目的と方法	講義	基礎看護技術Ⅱ
3	呼吸・循環を整える技術 3）吸入の実際	1．吸入の方法と援助を身につける	鼻カニューレ・フェイスマスクを用いた酸素吸入療法 必要物品、中央配管アウトレットへの接続 酸素流量の合わせ方、操作方法 ジェットネブライザーを用いた気道内加湿法 必要物品、吸入中の体位・呼吸の方法 対象に分かりやすい説明や観察	演習	基礎看護技術Ⅱ
4	呼吸・循環を整える技術 4）排痰ケア	1．排痰ケアの目的と方法を理解する	排痰ケアの目的と適応、特徴、吸引の影響、手順・留意点・観察ポイント 一時的吸引の目的、方法 体位ドレナージ	講義	基礎看護技術Ⅱ
5	呼吸・循環を整える技術 5）一時的吸引の実際	1．一時的吸引の方法と援助を身につける	吸引モデルを使用した口腔・鼻腔内吸引と気管内吸引 必要物品、中央配管アウトレットへの接続、 吸引圧の設定、吸引の方法、気管内吸引時の無菌操作、対象への声かけや観察	演習	基礎看護技術Ⅱ

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
6	呼吸・循環を整える技術 6）体温管理と末梢循環促進ケア	１．体温調節機能に異常をきたした人への援助を理解する ２．末梢循環促進ケアの目的と方法を理解する	体温調節機能に異常をきたした人の援助の方法 末梢循環促進ケア　目的と適応、原理、看護、循環を促進するマッサージ	講義・演習	基礎看護技術Ⅱ
7	苦痛の緩和・安楽確保の技術 1）罨法とリラクゼーション	罨法の目的や心身へもたらす効果について理解する	罨法とは、罨法の種類、目的、心身への影響（効果）、根拠について	講義	基礎看護技術Ⅱ
8	苦痛の緩和・安楽確保の技術 2）温罨法、冷罨法の実際	安楽確保のための技術を身につけることができる	温罨法（湯たんぽ）、冷罨法（氷枕、氷嚢、氷頸）の基本を確認しながら、作成・貼用の演習	演習	基礎看護技術Ⅱ
9	創傷管理技術 1）創傷管理の基礎知識	創傷管理の基礎知識について理解する	皮膚の構造や機能、創傷治癒過程や創傷管理の基礎的な知識について	講義	基礎看護技術Ⅱ
10	創傷管理技術 2）創傷処置と褥瘡予防ケア	創傷処置、褥瘡予防ケアを理解する	創傷の処置や管理について、テープ固定、剥離の方法 褥瘡予防ケア	講義	基礎看護技術Ⅱ
11	感染防止の技術 1）滅菌手袋の装着、無菌操作、ガウンテクニックの実際	無菌操作、滅菌手袋装着の実際を学ぶ	滅菌手袋装着と外し方、無菌操作　滅菌物の保管、滅菌物の取り扱い、無菌操作の留意事項について ガウンテクニックの基本、ガウンテクニック装着の確認 感染性廃棄物の取り扱い 使用済器具の感染防止の取り扱い 創部の消毒	演習	基礎看護技術Ⅰ
12	感染防止の技術 2）滅菌手袋の装着、無菌操作、創部の消毒（スタンダードプリコーションを含む）の実際	無菌操作、滅菌手袋装着の技術を習得できる	滅菌手袋装着と外し方、無菌操作　滅菌物の保管、滅菌物の取り扱い、無菌操作の留意事項について 感染性廃棄物の取り扱い 使用済器具の感染防止の取り扱い 創部の消毒	技術試験	
13・14	感染防止の技術 3）創傷処置と褥瘡予防ケアの実際	包帯法の援助技術を身につけることができる	包帯法（テープ・ガーゼ固定、巻軸帯、三角巾固定）の基本 無菌操作・創傷処置（手指衛生、個人防護用具の装着と外し方、無菌操作（中心静脈カテーテル挿入部の消毒処置）、ドレッシング材の貼付と剥がし方を対象の状態に応じて実施、褥瘡予防ケア	演習	基礎看護技術Ⅰ
15	テスト				

授業科目	暮らしを支える看護Ⅰ	学年	1学年
		単位	1
時期	前期	時間	15
科目設定理由	学生も地域の中で暮らしている。自分の体験や経験から「暮らす」ということを、見つめなおし言語化して、理解していく過程を大切にする。さらに、学校がある地域のなかで、医療や福祉及び介護に関係する機関や事業所及び施設を調査し、その地域の現状を把握する。		
目的	人々の暮らしを理解し、地域の問題点と改善点を考える。		
目標	1．生活する人々の「暮らし」を理解する。 2．暮らしの基盤としての地域を理解する。 3．地域の生活環境の健康への影響を考える。 4．地域の現状を把握する。		
評価方法	筆記試験・課題		
使用テキスト	＜系統看護学講座 ＞地域・在宅看護の基盤：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	人々の暮らしの理解	人々の「暮らし」を理解する	人々の暮らしの理解 ・暮らしとは	講義・演習	課題：家族以外にインタビュー「どのような暮らしをしてきたか」
2	「暮らし」の多様性	生活する人々の「暮らし」を知る	「暮らす」とは（発表・情報共有）	演習	インタビュー結果を発表する。様々な暮らしがあることを知る
3	暮らしの基盤としての地域を理解	暮らしの基盤としての地域を知る	暮らしと地域のかかわり ・地域の定義 ・人々の暮らす地域の多様性 暮らしと地域を理解するための考え方 ・システム理論 ・クリティカルシンキング	講義・演習	
4			地域包括ケアシステムと地域共生社会 ・地域包括ケアシステム ・地域共生社会	講義・演習	
5	地域の生活環境と健康	地域の生活環境の健康への影響を考える	暮らしと健康の関係 ・暮らしの中で生じる健康問題とその影響 ・家族の暮らしと健康 暮らしのなかで健康をとらえる ・健康の多様性 ・健康をとらえる看護の視点	講義・演習	
6		地域の現状を知る	地域調査	演習	学校周辺の調査をする
7			地域調査（発表） ・地域で何が起きているかを知る	演習・講義	
8	テスト				

授業科目	暮らしを支える看護Ⅱ	学年	1学年
		単位	1
時期	1学年前期・後期	時間	30
科目設定理由	地域在宅看護論実習Ⅰでの学びを活かし、地域包括ケアシステムを理解する。地域に暮らす対象を理解することで必要とされる看護を考える。また、暮らしについてさまざまな衛生統計から現状を考える。地域で最期を迎えたいと願う人々の要望から「地域包括ケアシステム」が生れた。地域のシステムを支え守る仕組みについて現状を調査し、現状と課題について発表し情報を共有する。		
目的	地域の現状がわかり、地域包括ケアシステムを理解する。		
目標	1．地域在宅看護の対象者を理解する。 2．地域在宅看護の対象としての家族を理解する。 3．地域に暮らす対象を理解し看護を考える。 4．地域に関する衛生統計を理解する。 5．さまざまな年代や状況の現状を衛生統計から理解する。 6．地域包括ケアシステムを説明できる。 7．地域における地域包括ケアシステムの現状について説明できる。		
評価方法	筆記試験・課題		
使用テキスト	＜系統看護学講座 ＞地域・在宅看護の基盤：医学書院		
参考図書	国民衛生の動向		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	地域在宅看護の対象者	地域在宅看護の対象者を理解する	①地域による多様性 ②ライフステージによる多様性	講義	
2			③健康レベルの多様性	講義	
3	家族の理解	地域在宅看護の対象としての家族を理解する	・わが国における家族の現状 ・わが国における家族とその変遷	講義	
4	地域在宅看護の対象としての家族	地域在宅看護の対象としての家族を理解する	・家族の発達と課題解決の機能 ・家族と意思決定支援	講義・演習	
5	地域に暮らす対象の理解と看護	地域に暮らす対象を理解し看護を考える	・地域の特性の理解と看護 ・家族のライフステージの理解と看護 ・対象の理解とつながりをつくる看護 ・地域での暮らしにおける災害対策	講義・演習	
6	地域を理解するための衛生統計 人口の動向と健康問題	衛生統計を活用して地域の健康を考える 保健統計から人口の動向を知り、健康問題を考える	地域の視点と看護・衛生統計の主要指標 保健統計（人口の動向と健康問題）	講義・演習	
7	母子保健・高齢者保健・成人保健	母子・高齢者・成人をめぐる衛生統計から現状を考える	母子保健　母子をめぐる衛生統計 高齢者保健　高齢者をめぐる衛生統計 成人保健　成人をめぐる衛生統計 産業保健	講義・演習	
8	障害者保健 介護保険	障害者・介護をめぐる衛生統計から現状を考える	介護保険　介護をめぐる衛生統計 障害者保健　障害者をめぐる衛生統計	講義・演習	
9	行政の役割・保健師の役割	行政の役割を述べられる 保健師の役割を述べられる	行政の取組み（保健所・保健センター）保健師の役割	講義・演習	
10	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムを説明できる	地域包括ケアシステム　地域の取組み	講義・演習	
11		地域の取り組みについて調査できる	調査及びまとめ	講義・演習	郡山市を調査しまとめる
12					
13		地域の取り組みについて発表できる	発表・情報共有	講義・演習	
14					
15	テスト				

授業科目	母性看護学概論	学年	1学年
		単位	1
時期	後期	時間	15
科目設定理由	人間のライフサイクルにおける母性・父性の特徴を捉え、その機能が健全に発揮できるように、人間の一生を通して性という側面から対象と家族を支援する看護を学ぶ。母性看護学概論では、将来子ども産み育てる女性、妊娠・分娩・産褥・育児期にある女性、その役割を終えた女性が各機能をその人なりに十分に発揮できるようにするための知識や技術を学習する。さらに、親あるいは家族としての役割を獲得する過程への援助にも関わる。また、看護の焦点である生殖過程には両性が関与してくる。母性の機能を最大限発揮するためには女性のみならず、産まれてくる子、そして父親、兄弟、その家族を含めた家族中心的視点や対象の様々な側面、その家族が住む地域社会、それらが関連し合い、健康にどのように影響するか理解し、全人的視点に立った看護についても考える。		
目的	ウィメンズヘルスの概念を理解し、母性を取り巻く社会の現状から母性看護の目的及び健康上の課題を理解する。		
目標	1. 母性の概念及びウィメンズヘルスの概念を理解し、母性看護の意義と役割を理解する。 2.セクシャリティの概念及び人間の性の特徴を理解する。 3.リプロダクティブ・ヘルス／ライツの概念の発達過程と意味を理解する。 4.母性看護の特徴を理解し、ウェルネス志向で対象と関わる意味を理解する。		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座専門分野>　母性看護学１・母性看護学概論：医学書院 <系統看護学講座専門分野>　母性看護学２・母性看護学各論：医学書院 <系統看護学講座専門分野>　成人看護学9・女性生殖器：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	母性とは	母性看護に関わる様々な概念について学ぶ	母性の概念 親になるということ 女性のライフサイクルと母性 家族機能と発達課題	講義	
2	母子関係と家族の発達	母子関係の形成とその特徴について学ぶ。	愛着形成 母子相互作用と母子関係の形成 母性意識の発達過程 母親役割獲得過程	講義	
3	母性看護の目的と特徴	母性看護に関わる様々な職業と看護の場について学び、その目的と内容について理解する。	母性看護の目的 母性看護の変遷 母性看護の特徴 母性看護に関わる職種と看護の場	講義	
4	母性看護に必要な看護技術	ウェルネス志向による女性のヘルスアセスメントと支援について考え、母性看護の特徴について学ぶ。	ウェルネス志向による女性のヘルスアセスメントと支援 健康教育と保健相談 女性の意思決定を支える看護技術 親になる過程および家族機能を促す看護技術 女性を中心としたケア（Women-centered　Care）	講義	
5	生殖にかかわる看護	不妊治療と生殖医療の現状と看護について理解する	妊孕性を支える看護 ・不妊治療の現状と課題 ・生殖補助医療と倫理	講義	
6	女性性を支える看護	女性性を支える看護について考える。	女性性を支える看護 女性生殖器疾患による生殖機能障害を受けた女性を支える ボディイメージの変容を体験している女性を支える	講義	
7	女性の生涯にわたる健康教育	リプロダクティブヘルスの視点からみた母性のライフサイクル各期の健康課題と健康教育の実際を学ぶ。	リプロダクティブヘルスの視点からみた母性のライフサイクル各期の健康課題と健康教育の実際 ・性教育 ・リプロダクティブヘルス/ライツの啓蒙活動	講義	外部講師 課題：レポート提出あり
8	テスト				

授業科目	成長発達支援論	学年	1学年
		単位	1
時期	前期	時間	30
科目設定理由	看護において、生物学や解剖生理学的な視点、心理学的な視点に加え、社会における生活者として人間をとらえる。生活は、環境や社会から相互に影響を受けている。暮らしは文化を形成し、文化を継承しながらまた、慣習としながらその中で人は生きている。人は生活の中で人間として育まれ、その土地の社会性を身につけその地域社会に適応した行動を求められていく。そのため、人間の成長発達を総合力・経験・智恵などの成熟という視点から総合的に捉え、人間を可能性を持ち、受精から死に至るまで自己実現に向かって成長発達しつづける存在としてとらえることが対象理解にもつながる。 本単元では人間の成長発達にそって、形態的成長と機能的発達、心理･社会的発達について学ぶ。		
目的	人間の成長発達にそって、形態的成長と機能的発達、心理･社会的発達について学ぶ。		
目標	1.成長発達しつづける存在としての人間について理解する。 2.ライフサイクルと自我の発達について理解する。 3.各発達段階における形態的成長と機能的発達、心理･社会的発達を理解する。 4.各発達段階における家族を理解する。		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	＜系統看護学講座専門分野＞成人看護学[1]成人看護学概論：医学書院 ＜系統看護学講座専門分野＞老年看護学：医学書院 ＜系統看護学講座専門分野＞小児看護学[1]小児看護学概論　小児臨床看護総論：医学書院 ＜系統看護学講座専門分野＞母性看護学[1]母性看護学概論：医学書院 ＜系統看護学講座専門分野＞精神看護学[1]精神看護の基礎：医学書院		
参考図書	中範囲理論入門：日総研出版		
担当教員	専任教員	看護師として附属病院で18年間の実務経験有	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	成長発達しつづける存在としての人間	成長発達しつづける存在としての人間について理解する	発達の原則 心のはたらき 世代を通してつながるいのち ライフサイクル（人生周期）という考え方	講義	
2	ライフサイクルと自我の発達	ライフサイクルと自我の発達について理解する	自我 　自我の構造 　自我同一性 ライフサイクルとアイデンティティ 　自我の発達段階 　フロイトの精神力動理論 　エリクソンの漸成的発達図式	講義	
3	人間の成長発達① ・妊娠 ・胎芽期 ・胎児期	胎生期・妊娠期間の成長発達について理解する	胎児・妊娠期間の母体の変化 　妊娠の成立と出産 胎生期・妊娠期間の家族の機能	講義	
4	人間の成長発達② ・新生児	新生児の成長発達について理解する	新生児の身体の発達 　新生児の身体所見と観察 新生児の心理、社会的発達 　愛着形成（ボウルビー） 新生児期の家族の機能	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
5	人間の成長発達③ ・乳児期	乳児期の成長発達について理解する	成長と発達の原則 成長・発達に影響する因子（遺伝的因子、環境的因子） 成長、発達の評価 乳児期の身体の発達 　形態的、機能的特徴 　コミュニケーション機能 乳児期の心理、社会的発達 　愛着形成、情緒の分化、気質 乳児期の発達課題 乳児期の家族の機能	講義	
6	人間の成長発達④ ・幼児期前期	幼児期前期の成長発達について理解する	幼児期前期の身体の発達 　形態的、機能的特徴 　コミュニケーション機能 幼児期前期の心理、社会的発達 　認知機能の発達（ピアジェ） 　感情の分化 　遊びの発達 幼児期前期の発達課題	講義	
7	人間の成長発達⑤ ・幼児期後期	幼児期後期の成長発達について理解する	幼児期後期の身体の発達 　形態的、機能的特徴 　コミュニケーション機能 幼児期後期の心理、社会的発達 　認知機能の発達（ピアジェ） 　感情の分化 　遊びの発達 幼児期後期の発達課題 幼児期後期の家族の機能	講義	
8	人間の成長発達⑥ ・学童期	学童期の成長発達について理解する	学童期の身体の発達 学童期の心理、社会的発達 　認知機能の発達（ピアジェ） 　社会性の発達 　日常生活の問題 　自律へ向けての関わり 学童期の発達課題 学童期の家族の機能	講義	
9	人間の成長発達⑦ ・思春期	思春期の成長発達について理解する	思春期の身体の発達 　思春期の性成熟の進行と第二次性徴の出現 思春期の心理、社会的発達 　思春期の自我発達と社会性の発達 思春期の発達課題 思春期の家族の機能	講義	
10	人間の成長発達⑧ ・青年期	青年期の成長発達について理解する	青年期の身体の発達 　成長のスパート、発達加速現象 青年期の心理、社会的発達 　青年期の自我発達と社会性の発達 青年期の発達課題 青年期の家族の機能	講義	
11	人間の成長発達⑨ ・前成人期	前成人期の成長発達について理解する	前成人期の身体の発達 　身体的変化の特徴 前成人期の心理、社会的発達 　生活とは何か 　働いて生活を営むこと 　生活の場 前成人期の発達課題 　エリクソン、ハヴィガースト 前成人期の家族の機能	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
12	人間の成長発達⑩ ・成人期	成人期の成長発達について理解する	成人期の身体の発達 身体的変化の特徴 成人期の心理、社会的発達 子育てと仕事 生殖性の獲得と発揮 成人期の発達課題 エリクソン、ハヴィガースト 成人期の家族の機能	講義	
13	人間の成長発達⑪ ・老年期 加齢による変化	加齢による身体的・心理的・社会的変化を学ぶ	高齢者の定義 加齢による身体的変化の特徴 加齢による精神・心理的変化 知的能力の変化 記憶力の変化 情緒の変化 加齢による社会的変化 職業からの引退、再就職 生活パターンの変化	講義	
14	人間の成長発達⑫ ・老年期 老化について	老いを生きるということについて考える	加齢と老化 老化の特徴 老化学説 生理的老化と病的老化 老いを生きるということ 老年期の発達課題 エリクソン　・ペック　・ハヴィーガースト	講義	
15	テスト				

授業科目	健康支援論Ⅰ(子どもと女性)	学年	1学年
		単位	1
時期	前期	時間	30
科目設定理由	看護は人々の健康に大きく関わる。今日の健康観は、病気と健康を対立して捉えるのではなく、自分の能力が十分発揮できる状態から不調をきたしている状態までの連続的なものとしてとらえられている。そして、たとえ疾患や障害があろうとも、それらと共存し、その人の生き方を尊重して自己現実のために努力をし、より高いレベルの生活機能を目指すその姿勢・態度を健康というように変化している。看護はその可能性を伸ばし、強化するような働きかけを行う必要があり疾患や障害をうけた後に関わるだけではない。健康状態で生活するために健康を維持・増進し疾病の予防していくことが必要である。健康支援論Ⅰでは、健康を概念から理解し、健康とはどういう状態か、健康な生活とは何かを学ぶ。人が生まれ新生児から成長していく過程、そして女性の生涯のなかで、その人のステージに沿った健康を理解し、その人に合った看護を考えていく。健康観の多様性を理解し、その人にとっての健康を保持・増進、疾病を予防するための看護を学ぶ。		
目的	健康の概念とその人にとっての健康を保持・増進、疾病を予防するための看護を学ぶ。		
目標	1.健康について理解する 2.ヘルスプロモーションを理解する 3.新生児の生理的経過を理解する 4.乳幼児の生活を理解する 5.学童期の健康課題を理解する 6.思春期の心身の変化を理解する 7.女性の健康を守る方法を理解する 8.地域で行われる、母子を支援する仕組みを理解する 9.地域が行う健康支援を理解する		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	＜系統看護学講座専門分野＞小児看護学[1]小児看護学概論／小児臨床看護総論：医学書院 ＜系統看護学講座専門分野＞母性看護学[1]母性看護学概論／母性看護学各論：医学書院		
参考図書	中範囲理論入門：日総研出版		
担当教員	専任教員	看護師として附属病院で12年間の実務経験有	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	健康の概念	健康とは何かを理解する	健康とは何か 健康の定義 健康の定義 権利としての健康 世界保健機関憲章、日本国憲法、世界人権宣言	講義	
2	健康の概念	健康観の変化を理解する	プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション 健康の拡大 健康でない状態 障害とはなにか 健康と生活 ICF 疾患と障害の予防（1次、2次、3次）	講義	
3	ヘルスプロモーションと看護	1．ヘルスプロモーションとはについて考えることができる 2．ヘルスプロモーションの目標が分かる 3、ヘルスプロモーション活動のプロセスと方法が分かる	ヘルスプロモーションとは ヘルスプロモーション活動の原則 ヘルスプロモーション活動の方法	講義	
4	新生児・乳児期の生活と看護	1．乳児期の発達、生活を理解する 2．乳児期の子どもへの育児支援を理解する	日常生活の世話（排泄、食事（アレルギー、衣服、睡眠、 SIDS 遊びの支援 事故防止 育児支援	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
5	幼児期の生活と看護	幼児期のコミュニケーションの発達、基本的生活習慣の習得過程など幼児に生活と看護を理解する	コミュニケーション しつけ 日常生活の自立に向けた関わり（排泄（夜尿、退行現象）、食事（偏食や遊び食べ）、睡眠、衣服、清潔（清潔行動の習慣、う歯の予防） 遊びの発達と社会性 事故防止 生活習慣の改善	講義	
6	学童期・思春期の生活と看護	1．学童期の成長発達に影響する要因、起こりやすい健康問題を学童を取り巻く諸環境から理解する 2．思春期における性成熟の進行と第二性徴出現の関連が理解できる	社会性の発達 日常生活の問題 第二次性徴・自我の発達 不登校、いじめ、不適応行動 生活習慣病の予防（食生活の乱れ、肥満、やせ、運動不足、夜型の生活）	講義	
7	子どもにみられやすい心身の問題	子どもの生活の場におけるメンタルヘルスと支援について学ぶ	子どもにみられやすい心身の問題 （虐待、ネグレクト、自傷行為、うつ病、依存他） 愛着のパターンと人間関係 非道処遇が子どもの成長・発達に及ぼす影響 トラウマによるストレス反応の特徴 「安全である」と感じることの重要性	講義	
8	ジェンダーと健康 ウィメンズヘルスの考え方	1、人間の性の多様性と支援について学ぶ 2、ウィメンズヘルスについて考える	人間の性に関する様々な概念 ・身体的性別、性自認、性指向、性表現、性に対する医療的介入 ・性分化疾患 ・性違和 児童・思春期における支援 ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて ・ウィメンズヘルスとは	講義	
9	ライフサイクルにおける女性生殖器の機能と健康課題	1．ライフサイクルにおける女性生殖器の機能と健康課題について考える	思春期にみられる身体的変化と健康課題 　月経の仕組み 1）メカニズムと正常な月経 初経から閉経まで ２）健康課題 月経困難症と月経前症候群 更年期の特徴と健康課題	講義	
10	母子の健康に影響する因子	1、母子の健康に影響する因子と健康課題について理解する ２．性感染症と母子への影響について理解する	母子の健康に影響する因子 嗜好品、就労（女性の就労支援） 性感染症の現状とその看護 母子感染症 プレコンセプションケア	講義	
11	女性の健康を守る看護	１．人工妊娠中絶と性暴力被害にあった女性への看護について理解する ２．受胎の調節を行う意味を理解する。	人工妊娠中絶の実際と看護 性暴力・DVの実際と看護 受胎調節（避妊）	講義	
12	女性の健康を守るための健康教育	女性への健康教育を考える	人工妊娠中絶、DVなど現代女性の現状を理解し、女性の健康を守るために行う健康教育を考え、意見交換する。	GW	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
13	母子を支える地域の役割	地域で行われているこどもと女性への支援を理解する	1，地域での母子の生活とその支援 １）地域での育児支援と保健相談 ２）母子の生活を支える社会資源 母子健康包括支援事業 母子保健法 健やか親子２１	講義	
14	地域における健康支援	1、地域での感染管理を理解する 2．感染対策の法律を理解する 3．感染症発症時の対応と予防活動を理解する	感染性疾患への対策 感染性疾患の発生状況 感染性疾患予防の原則 わが国の感染症対策体制 ・感染症法による対策 ・その他の法律及び規則（検疫法、国際保健規則） 健康危機管理の実際 ・感染症発生時の対策と予防活動 （感染症対策の関係法律、予防接種法）	講義	
15	テスト				

授業科目	健康支援論Ⅱ（成人・高齢者）	学年	1学年
		単位	1
時期	前期～後期	時間	30
科目設定理由	成人・高齢者の健康と暮らし、健康観の多様性を理解し、その人にとっての健康を保持・増進、疾病を予防するための看護を学ぶ。、人・高齢者の本人のみではなくその家族や地域を支援する術を学修し、体力増進、生活習慣病の予防、体力低下の予防、介護予防、など心身の向上のための活動を支援することを学ぶ。		
目的	成人と高齢者の健康と暮らし、健康を保持・増進、疾病を予防するための看護を学ぶ。		
目標	1.成人・高齢者の健康と暮らしを理解する 2.成人・高齢者の健康を障害する要因を理解する 3.成人・高齢者の健康支援について理解する 4.地域における健康教育について理解する		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	＜系統看護学講座専門分野＞成人看護学[1]成人看護学総論：医学書院 ＜系統看護学講座専門分野＞老年看護学／老年看護病態・疾患論：医学書院 ＜系統看護学講座専門分野＞精神看護学[1]精神看護の基礎：医学書院 ＜系統看護学講座別巻＞精神保健福祉：医学書院 ＜系統看護学講座専門基礎＞公衆衛生　健康支援と社会保障制度②：医学書院		
参考図書	中範囲理論入門：日総研出版		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	成人の暮らしと健康	成人にとっての健康と暮らしの特徴を学ぶ	成人にとっての健康とは 成人を取り巻く環境 成人のライフスタイルの特徴 　ライフスタイルや働き方の特徴と広がり 　日常の暮らしの特徴と多様性 生活習慣病	講義	
2	成人の仕事と健康	成人の職業と健康障害の関連を学ぶ	成人の健康の状況 生活と健康をまもりはぐくむシステム 　生活習慣病対策、健康日本21、健康増進法 　新健康フロンティア戦略、がん対策基本法 　特定健康診査と特定保健指導 　スマートライフ－プロジェクト 職業性疾病・業務上疾病 　労働基準法 　労働安全衛生法 職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護	講義	
3	生活行動がもたらす健康問題とその予防	生活行動がもたらす健康問題について学ぶ	健康バランスの構成要素 就業・労働形態の変化がもたらす健康問題 飲酒がもたらす健康問題 喫煙と健康問題 身体活動量低下と運動不足 肥満	講義	
4	関係のなかの人間	家族のコミュニケーションや家族役割、人の成長と回復にとっての集団の役割とダイナミクスを学ぶ	システムとしての人間関係 全体としての家族 　家族の関係性とコミュニケーション 　家族システムという考え方 人間と集団 　集団と個人 　グループの活用 　全体としてのグループ	講義	

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
5	心身の健康に及ぼすストレスの影響	ストレス及び精神の健康における危機、必要な力と支援を学ぶ。	精神の健康とは 心身の健康に及ぼすストレスの影響 　生体システムとしてのストレス反応 　ストレスの社会文化的背景 　精神保健における危機というとらえ方 　ストレスへの対処（コーピング）	講義	
6	社会生活の場におけるメンタルヘルス	社会生活の場（家庭・職場）におけるメンタルヘルスと支援について学ぶ	職場におけるメンタルヘルス 　働く人の心の健康 　過労死 家庭でのメンタルヘルス 　ひきこもり 　うつ病 　物質依存（アルコール、薬物、他）	講義	
7	精神保健福祉活動のための3つの予防概念	一次予防、二次予防、三次予防の概念と概要を学ぶ	精神保健における３つの予防概念 一次予防としての啓発と教育 二次予防としての早期発見、早期介入 三次予防としての回復と再発防止への支援	講義	
8	大人の学習	成人の学習の特徴を学ぶ	大人の健康行動のとらえ方 大人の学習 学習に基づく行動形成 行動変容ステージモデル 自己効力感	講義	
9	集団への健康支援	集団への健康支援を学ぶ	集団（グループ）のもつ意味 看護における集団へのアプローチの基本 集団への効果的なはたらきかけ	講義	
10	高齢者の健康	高齢者にとっての健康と暮らしについて学ぶ	高齢者にとっての健康について理解する 健康のとらえ方 健康の特徴 高齢者にとっての健康維持・増進の意義 サクセスフルエイジング 高齢者の暮らし、生きがい 高齢者の家族の機能	講義	
11	老年症候群	高齢者の健康を障害する要因を学ぶ	老年症候群 フレイル サルコペニア 低栄養	講義	
12	高齢者の健康支援	高齢者の健康支援について考える	健康管理、健康学習、健康教室 老年症候群予防、介護予防 日常生活援助、日常生活自立への支援	講義	
13	地域における健康教育	健康教育の概要について学ぶ	健康教育の目的 健康教育の方法	講義	
14	地域における健康教育	地域における健康教育について学ぶ	地域で行われている健康教育 生活習慣病 介護予防	講義	
15	テスト				